

立春の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員に於かれましては、益々ご清福の段、大慶至極に存じ上げます。

皆様には日頃より当支部運営に際して特段のご高配を賜り、深甚なる敬意を表すと共に、倍旧のご支援を伏してお願ひ申し上げる次第です。

さて今年も怯懦な日常と決別し、新年の決意を確信するために恒例の久住山詣でを実施致しましたが、標高一、七九一米の中岳直下は氷点下十度、風速二十米超の正に非日常の世界でした。

しかし昨今の風潮を象徴するが如く、寒さに震え上がる男どもを尻目に、単独行の遅しき「山ガール」が、凍てついた避難小屋に飛び込んだのには些か驚かされ、巷間「二十一世紀は女性の時代」と云われる事に妙に納得したところす。

また一月十四日は「えびの駐屯地新年賀詞交換会」へ宮崎支部より三名参加して、仲連隊長を始め各級部隊指揮官の方々と親しくお話しをさせて頂きました。

特に業務隊総務科長の宮園一尉には高岡町の自衛隊生徒出身と云う事もあり、我々宮崎支部会員にも大変お気遣い頂き、改めて感謝申し上げます。

ところで同日行われた台湾総統選挙では、国民党現職の馬英九氏が民進党の蔡英文女史を僅差で破り再選を果たしました。

馬氏の対中国政策は経済関係を重視する協調路線で、関税撤廃等の「兩岸共同市場」を提唱し、台中統一、台湾独立、武力行使を選択しない「三不」がスローガンです。

中国は馬英九陣営の全面的支援で、総統選挙時国内在住の台湾ビジネスマン達の為、飛行機切符迄手配して国民党への投票を促したそうですが、その差は僅か六%でした。

馬英九総統も「国民党が中国との協調関係を維持し乍らも、台湾独自の路線を歩む事が出来なければ次の総裁選では必ず政権交代が起こる」と理解している筈ですから、

台湾は従来通り軍事戦略的には米国と協調しつつも、基本的には中国の神経を逆なでしない政策を選択するしか無いようです。(小川和久氏のメールより一部抜粋)

しかし近年台湾と中国との海空軍事力が拮抗していく中で、防波堤は日米同盟のみであり、台湾も我々と共に歩まねば「亡国の悪夢」は遠い将来の話ではありません。

更に今年は三月露国、五月仏国、十一月米国、十二月韓国と、大統領選挙が続き、また秋頃には中国共産党大会も予定されており、正に「選挙イヤー」とも云えます。

ダイナミックに変革する国々を羨ましく思いつつ一月二十五日、東京出張の合間に靖国神社参拝後遊就館に行った折、松下新平参議院議員と遭遇致しましたが、確かにこの世の中には変えねばならぬものと、変えてはならぬものが混在しています。

その見極めは大切ですが、ロビーに鎮座する沖繩で戦った一五五加農砲の銘板に、「火砲は砲兵の生命なり。故に砲兵は必ず之と死生荣辱を俱にし例え一門の火砲一名の砲手となるも尚毅然として戦闘を遂行すべし。砲兵操典綱領」と刻んであります。

来る三月二日、十八時より平成二十三年度宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部総会を宮崎第一ホテルにて開催致しますので万障お繰り合わせの上、何卒ご来駕下さい。

平成二十四年二月一日

宮崎県防衛協会

青年部会

宮崎支部長

小倉和彦

